# 日興ワールド・カレンシー・ファンド2004-01

計算基準日　2021年12月30日



日興アセットマネジメント株式会社

※当レポートでは基準価額および分配金を1口当たりで表示しています。
※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
※グローバル・カレンシー・マザーファンドの運用の外部委託先は、2009/1/15に、メロン・キャピタル・マネジメント・コーポレーションから、日興アセットマネジメント アメリカズ・インクに変更されました。また、2017/6/9より、日興アセットマネジメント アメリカズ・インクから、P/E Global LLCに変更されております。

## ファンドの基本情報

| | | | |
|---|---|---|---|
| 基準価額 | 7,605円 | 純資産総額 | 0.76億円 |
| 設 定 日 | 2004年1月30日 | 決 算 日 | 原則1月29日、7月29日 |
| 償 還 日 | 2022年1月31日 | | (休業日の場合は翌営業日) |

「下方リスク」:標準偏差がファンドの収益率の上下双方のぶれの大きさ(リスク)を示すのに対し、この指標は収益率が下方にぶれるリスクを示します。
「最大ドローダウン」:過去(各月末)のドローダウンの最大値です。ドローダウンは、各月末の基準価額における、過去の月末ベースの最高の基準価額からの下落率です。最悪のタイミングでファンドを購入していたと仮定した場合の最大の下落率を示します。
「シャープ・レシオ」:ファンドがとったリスクに見合ったリターンを得ているかを示す指標で、この値が大きいほど高い成果が得られたことを示します。
「最大ドローダウン/年率平均リターン」:最大ドローダウンを平均的に何年で回復できるかを示します。
「勝率」:設定来で月次リターンがプラスとなった月の割合です。
※基準価額は、信託報酬(年率1.16%)控除後の値です。
※分配金込み基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意ください。
※右記の「パフォーマンス分析」は、分配金込み基準価額の月次リターンをベースに計算した理論上のものである点にご留意ください。
※下記の推移グラフおよび「分配金込み基準価額のパフォーマンス」は、分配金込み基準価額を使用した理論上のものである点にご留意ください。
※ベンチマークは1ヵ月円LIBORです。

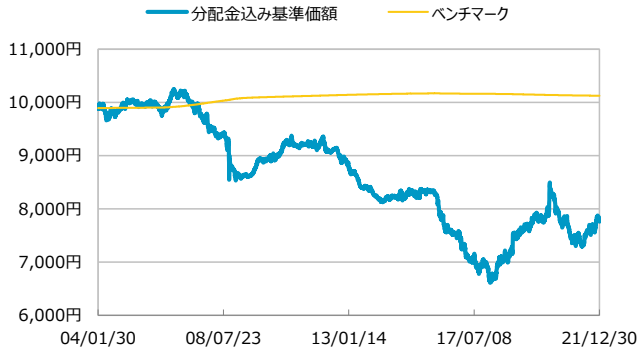
## パフォーマンス分析(分配金込み基準価額ベース)

| リターン | |
|---|---|
| 月次リターン | -0.86% |
| 最大月次リターン | 4.95% |
| 最小月次リターン | -4.26% |
| 年初来リターン | 4.29% |
| 設定来リターン | -21.56% |
| 平均リターン(月次) | -0.11% |
| 年率平均リターン | -1.27% |

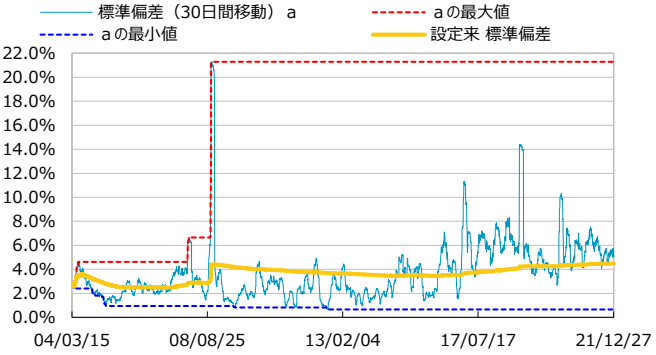
| リスク(設定来) | |
|---|---|
| 標準偏差 | 4.15% |
| 下方リスク | 3.16% |
| 最大ドローダウン | -34.82% |

| パフォーマンス(設定来) | |
|---|---|
| シャープ・レシオ | — |
| 最大ドローダウン/年率平均リターン | — |
| 勝率 | 48.4% |

## 分配金込み基準価額の推移




## 分配金込み基準価額における標準偏差の推移




## 分配金込み基準価額のパフォーマンス(騰落率)

| 期間別 | ファンド | ベンチマーク |
|---|---|---|
| 3ヵ月 | 0.70% | -0.02% |
| 6ヵ月 | 3.54% | -0.04% |
| 1年 | 4.29% | -0.07% |
| 3年 | 3.30% | -0.28% |
| 設定来 | -21.56% | 2.34% |

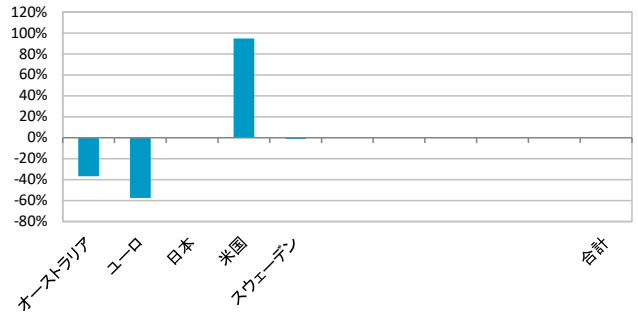
## 分配金実績(税引前)

| | |
|---|---|
| 2021/7/29 | 0円 |
| 2021/1/29 | 0円 |
| 2020/7/29 | 0円 |
| 2020/1/29 | 0円 |
| 2019/7/29 | 0円 |
| 設定来合計 | 206円 |

## 資産構成(マザーファンド)

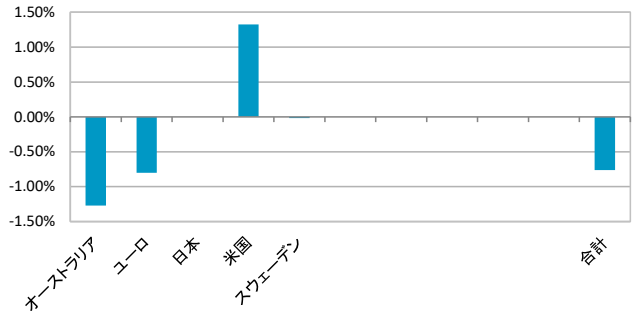
| 資産 | 比率 |
|---|---|
| コール・その他 | 100.0% |
| 日本国債 | 0.0% |
| 海外債券 | 0.0% |
| | |
| 合計 | 100.0% |

## エクスポージャー




マザーファンドの通貨のエクスポージャーを、マザーファンド純資産総額に対する比率で表しています。

## 損益寄与度(月次ベース)




マザーファンドの通貨からの損益寄与度(概算値)です。現物資産ポートフォリオの損益および一切のコストが考慮されていないことから、基準価額の推移と完全に一致するものではありません。また、当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当ファンド(マザーファンドを含みます)は、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合があるほか、為替予約取引なども積極的に活用しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。■当資料は、日興アセットマネジメントが当ファンドの運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料です。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

nikko am 日興アセットマネジメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

＜当月のファンドのパフォーマンス＞

当月のリターンはマイナスでした。

米国の実質成長率とインフレ率が予想を上回り続ける中、米国連邦準備制度理事会（FRB）は新たな引き締め路線に乗り出しました。その結果、2022年にはボラティリティが上昇することが予想されます。通貨戦略は、過去にそのような時期に良好なパフォーマンスを上げています。2021年、ほとんどの通貨が米ドルに対して大幅に弱くなり、特に日本円が弱くなりました。通貨戦略のファクターは引き続き、米国の成長が世界の他の地域よりも強く、米ドルが強くなることを示唆しています。

当該運用戦略は、ファンダメンタルズ・ファクターに焦点をあて、ベイズの統計的プロセスを用いて通貨リターンを予測します。現在のポジションの決定には、以下の二つのファクターを重視しています。一つ目は、成長期待値が高い国ほど魅力的である、相対的な成長期待値です。二つ目は、コモディティ通貨は魅力が減り米ドルなどのベース通貨の魅力が増す、経済のサプライズです。

＜市況レビュー＞

仮に現在の状態が持続するはずはないと仮定した場合、足元の株式と債券による推移の間の矛盾するシグナルが解消され得る展開として、3つの流れが考えられます。すなわち、短期債と長期債市場の価格水準はいずれも将来を正しく織り込んでいると仮定した場合、2022年、米国連邦準備制度理事会（FRB）は金融引き締めを大胆に進めると考えられますが、引き締めの周期は短くなり、フェデラルファンドのターミナルレート（政策金利の最終到達点）が低い水準で舵は再び金融緩和へと切られることになるでしょう。このシナリオのもとでは、経済成長は金利上昇局面を乗り越えられず失速するため、株価が高過ぎるのはほぼ確実であり、間違いなく調整を余儀なくされると考えられます。株価のバリュエーションと短期金利が正しい水準にあると仮定した場合、経済成長と物価上昇は力強さを保つはずであり、FRBは大胆な利上げを行うと考えられますが、それが直ぐに景気回復の腰折れをもたらすことはないでしょう。つまり、より長い引き締め周期とより高いターミナルレートを見越して長期債利回りが上昇するはずであることがうかがえます。最後に、株価と長期金利が正しい水準にあると仮定した場合、低い物価上昇率の復活と持続的な経済成長を予想することができます。この場合、FRBは予想されているほど利上げを行う必要がないため、短期利回りは低下すると考えられます。これらの結末に確率を割り当てる作業は、新型コロナウイルスのオミクロン株という外的要因の影響で一筋縄にはいきません。市場はこれまでのところ今回の新たなウイルスの波を材料視していない様子ですが、欧米諸国での感染者数に鑑みると、全体的な成長に影響が生じるとみています。通常であれば、こうした事実を踏まえ3つ目のシナリオ、すなわちFRBの金融引き締めが先送りされ、短期利回りが低水準に逆戻りするというシナリオが有力ですが、パンデミックによる供給への有害作用に鑑みると、パンデミックの影響で経済成長は減速する一方、インフレ率は押し上げられるという可能性もあります。そうした事態に発展する確率は低いと考えられますが、その場合は株式市場が調整局面に入るという1つ目のシナリオが実現する余地が生じます。

＜今後の投資戦略について＞

今後も新しいデータやファクターの適合度、新しい分析ツールを採り入れる試みを続けながら、定量モデルに基づく運用を行なってまいります。

■当ファンド（マザーファンドを含みます）は、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合があるほか、為替予約取引なども積極的に活用しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。■当資料は、日興アセットマネジメントが当ファンドの運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料です。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

nikko am 日興アセットマネジメント